

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

# 自己評価報告書

平成28年6月1日現在

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

平成28年6月1日作成

# 目 次

1	学校の理念、教育目標 .....	3	5-18	学生相談 .....	4 3
2	本年度の重点目標と達成計画 .....	5	5-19	学生生活 .....	4 5
3	評価項目別取組状況 .....	6	5-20	保護者との連携.....	4 7
<b>基準 1</b>	<b>教育理念・目的・育成人材像 .....</b>	<b>7</b>	5-21	卒業生・社会人.....	4 8
1-1	理念・目的・育成人材像 .....	8	<b>基準 6</b>	<b>教育環境.....</b>	<b>5 0</b>
<b>基準 2</b>	<b>学校運営.....</b>	<b>1 1</b>	6-22	施設・設備等 .....	5 1
2-2	運営方針.....	1 3	6-23	学外実習、インターンシップ等 .....	5 2
2-3	事業計画.....	1 4	6-24	防災・安全管理.....	5 4
2-4	運営組織.....	1 5	<b>基準 7</b>	<b>学生の募集と受入れ.....</b>	<b>5 6</b>
2-5	人事・給与制度.....	1 7	7-25	学生募集活動 .....	5 7
2-6	意思決定システム .....	1 8	7-26	入学選考 .....	5 9
2-7	情報システム .....	1 9	7-27	学納金 .....	6 0
<b>基準 3</b>	<b>教育活動.....</b>	<b>2 0</b>	<b>基準 8</b>	<b>財 務 .....</b>	<b>6 1</b>
3-8	目標の設定 .....	2 2	8-28	財務基盤 .....	6 2
3-9	教育方法・評価等 .....	2 4	8-29	予算・収支計画.....	6 4
3-10	成績評価・単位認定等.....	2 8	8-30	監査.....	6 5
3-11	資格・免許取得の指導体制.....	2 9	8-31	財務情報の公開.....	6 6
3-12	教員・教員組織.....	3 0	<b>基準 9</b>	<b>法令等の遵守 .....</b>	<b>6 7</b>
<b>基準 4</b>	<b>学修成果.....</b>	<b>3 2</b>	9-32	関係法令、設置基準等の遵守.....	6 8
4-13	就職率 .....	3 6	9-33	個人情報保護 .....	6 9
4-14	資格・免許の取得率 .....	3 7	9-34	学校評価 .....	7 0
4-15	卒業生の社会的評価 .....	3 8	9-35	教育情報の公開.....	7 2
<b>基準 5</b>	<b>学生支援.....</b>	<b>3 9</b>	<b>基準 10</b>	<b>社会貢献・地域貢献.....</b>	<b>7 3</b>
5-16	就職等進路 .....	4 0	10-36	社会貢献・地域貢献 .....	7 4
5-17	中途退学への対応 .....	4 2	10-37	ボランティア活動.....	7 6
			<b>4</b>	<b>平成24年度重点目標達成についての自己評価.....</b>	<b>7 7</b>

# 1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>1. 建学の理念</p> <p>建学の理念は、創設者の教育に対する思いであり、学校教育のバックボーンであり、時代を越えて連綿と受け継がれて学校の個性を形成し、最終的にはカリキュラム編成に反映させるべきものである。さらに、将来構想を策定する際にもこの基本理念をもとにして策定されるべきものである。</p> <p>2. 教育理念・目的・育成人材像等</p> <p>理念、目的、育成人材像は学校運営、教育活動の基本となるもので内部的には結集軸となるだろうし、外部的には差別化のツールになるべきものである。理念・目的等を実現するためにはフレームワークとしてのカリキュラムが整合性(目的適合性)をもっているべきである。</p> <p>3. 2つのキー・コンセプト</p> <p>本校は、下記の2つのコンセプトで、どんな生徒にも、在校中に成功体験を積み、「やれば出来る」という達成意識を持たせ、以って社会に積極的に貢献できるような人間教育を確立している。</p> <p>① 社会に有為な人材育成のために、法定時間を超える専門教育を施し、「身体で覚える」実技教育に取り組んでいること。</p> <p>② 「優れたプロは、優れた人間性、体力を持っている」という理念のもと人格教育を行っていること。</p>	<p>1. 本校の目的</p> <p>本校の目的は、実社会での即戦力を養成するため体感・体験・体得を重視し、「身体で覚える授業」を実践し、また「優れたプロは優れた人間性・体力を持っている」を校訓に、専門教育以外に、特に徳育面を重視し、情操豊かな人間性をもった人材を育成すること。</p> <p>2. 本校の育成人材像</p> <p>具体的には、本校は学校教育法に基づき、服飾造形に関する基礎理論と高度な技術並びに豊かな感性と創造性を備えた専門家としてファッション産業界に寄与し、同時に深く社会に貢献できる実践的な人材の育成を目的とする。</p> <p>3. 本校のカリキュラムの特徴</p> <p>少人数の担任制個別指導クラスで、教員はもちろん、業界の先輩、人生の先輩として、学校生活から将来設計や就職活動などもきめ細やかにサポートするなど、一人ひとりの個性を見出して丁寧に潜在性を引き出す個別指導を行なっている。本校オリジナルブランドの期間限定ショップ【インキュベイト】や「ファッションショーincubate collection」などの運営を中心に学生が主体的に学ぶ実践教育を軸としたカリキュラム構成が本校の特徴である。</p>

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>4. 理念・目的・育成人材像の課題</p> <p>時代の風潮による規模の拡大化と教育内容の総合化に伴い、建学の理念は稀薄化せざるを得ない。随時、歴史的なチェックが必要と思われる。不易流行の見極めが必要。</p>	

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 2 本年度の重点目標と達成計画

平成27年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>学校目標に基づく優先課題</p> <p>平成27年度学校目標</p> <p>生徒の『教育内容における満足度向上』</p>	<p>①平成27年度学校目標</p> <p>生徒の『教育内容における満足度向上』</p> <p>②同目標達成のための、平成27年度の優先課題</p> <p>平成26年度事業計画において『授業運営の見直し』『就職支援の充実』『学習進捗状況の理解』の3つの施策を掲げましたが現段階において未完成の部分が多くあり、課題も出てきました。平成27年度の学校目標は前年度を継続し、生徒の『教育内容における満足度向上』とします。</p> <p>達成計画については以下の内容を行う計画です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 非常勤講師の学園目標及び学校目標理解のための講師会を開催します。</li> <li>2. 学園目標である『惹き付ける授業』のノウハウを学ぶ教員研修を計画し実施します。</li> <li>3. 『惹き付ける授業』のモデル授業となる科目を2科目程度設定し運営します。</li> <li>4. 『惹き付ける授業』の検証するアンケートを実施し、生徒の満足度を測ります。</li> </ol> <p>学校、学科のルーブリック（基準）の導入に着手します。学校、学科のルーブリック（基準）の導入に着手します。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

### **3 評価項目別取組状況**

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の教育目標は『優れた人格と実践力をもった人材を生み出すこと』と定めており、実践力の定義としては『ファッションの専門知識・技術と社会人基礎力を融合したもの』としている。</p> <p>ファッション業界に向けた職業教育を目的としている。</p> <p>課題</p> <p>教育理念・目的・育成人材像の各教員との共有が不足している反省がある。各授業は教育目的達成のための具体的行動であるはずだが、その目標共有が不足している。</p>	<p>アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを明確化し、各教員に育成人材像の理解を浸透させていく。</p>	

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 1-1 理念・目的・育成人材像

1-1 (1/3)	評価：4
-----------	------

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか		<p>理念・目的は学則に明記し、育成人材像は学校案内書で周知している。</p> <p>学校の教務担当教員を中心として科目の見直し、再編成を随時実施。</p> <p>関連業界の求める人材像に適合するために学科ごとに教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの改編等を行っている。</p> <p>学校案内書に明記するとともに学内の玄関に銘板で掲示する事により周知徹底を図っている。</p>	<p>理念、目的、育成人材像は学校運営、教育活動の基本となるもので内部的には結集軸となるだろうし、外部的には差別化のツールになるべきものである。</p> <p>理念・目的等を実現するためにはフレームワークとしてのカリキュラムが整合性(目的適合性)をもっているべきである。</p> <p>理念等は時代や社会の変遷とともにその有用性を常にチェックすべきである。</p> <p>理念等は学内においては組織の結集軸となり、学外については差別化するためのツールになるべきである。</p>	<p>時代の風潮による規模の拡大化と教育内容の総合化に伴い、建学の理念は稀薄化せざるを得ない。随時、歴史的なチェックが必要と思われる。不易流行の見極めが必要。</p> <p>カリキュラムが目的達成のための整合性があるかどうかを評価するために毎年、授業アンケートでチェックしている。</p> <p>卒業生が活躍するであろう業界のニーズを把握し、継続的にカリキュラムのチェックが必要。</p> <p>今後、本校の建学の理念を広報活動等で一層周知徹底する必要がある。</p>	<p>Student Hand book</p> <p>学校法人後藤学園規程集(学則)</p> <p>学校案内書</p> <p>ホームページ</p> <p>常務会の議事録</p> <p>教育課程編成委員会の議事録</p> <p>校内の銘板</p>



小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		<p>アパレルプロフェッショナル科(以下AP科と省略)はデザイン・技術系専門職をめざし、「服作り」技術を学ぶ学科であり、①実践を通して感性を表現する、②作品制作を通じて計画性を学ぶ、③コミュニケーション能力を高めるのが特徴である。</p> <p>ファッションスタイリング科(以下FS科と省略)アパレル業界で流通・販売のプロ、スタイリストをめざし、「トータルコーディネート」のファッション提案を学ぶ学科であり、①コミュニケーション能力を伸ばす、②計画性を学ぶ、③美意識を磨くのが特徴である。</p> <p>両学科とも業界のニーズである『社会人基礎力』と『ファッションの専門性』を兼ね備えた人材育成を行っている。</p>	<p>両学科とも教育課程編成委員会や業界での業務従事者の意見を聞いている。その意見を授業内容に取り入れるには、実施出来る人材が不在であり人材を探すところからが必要となる。その為、業界から協力を仰ぐが、本務の多忙さから十分な協力が得られない。</p>	<p>業界の人材ニーズに沿った育成が出来るよう、企業と連携しての授業を準備中である。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか		<p>学生作品を学生たちが販売する期間限定ショップや incubatecollection と銘打って行なうファッションショーなどの運営を学生たちが計画、実行、検証、修正し、就職後の現場を意識した教育として実施。</p> <p>それぞれの学科で企業との連携授業を実施し、職業教育の充実をはかっている。</p>	<p>本校の教育理念である「身体で覚える授業」を実現するために、実習をさらに強化すべきである。</p> <p>社会人基礎力を鍛える教育手法のレベルアップが必要。</p>	<p>学生が主体的に学ぶ教育手法の研修が必要。</p>	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的（3～5年程度）な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか		<p>①18才人口の推移 ②専修学校の第7分野の在籍者数 ③本学の市場占有率でウエイトをかけて入学者の予測数から収支計画を策定。</p>	<p>中期計画を策定し、それに基づいて将来計画を策定すべきである。</p>	<p>収入予測はあくまで計算上の数値のため毎年のフォローアップ作業が必要。</p>	

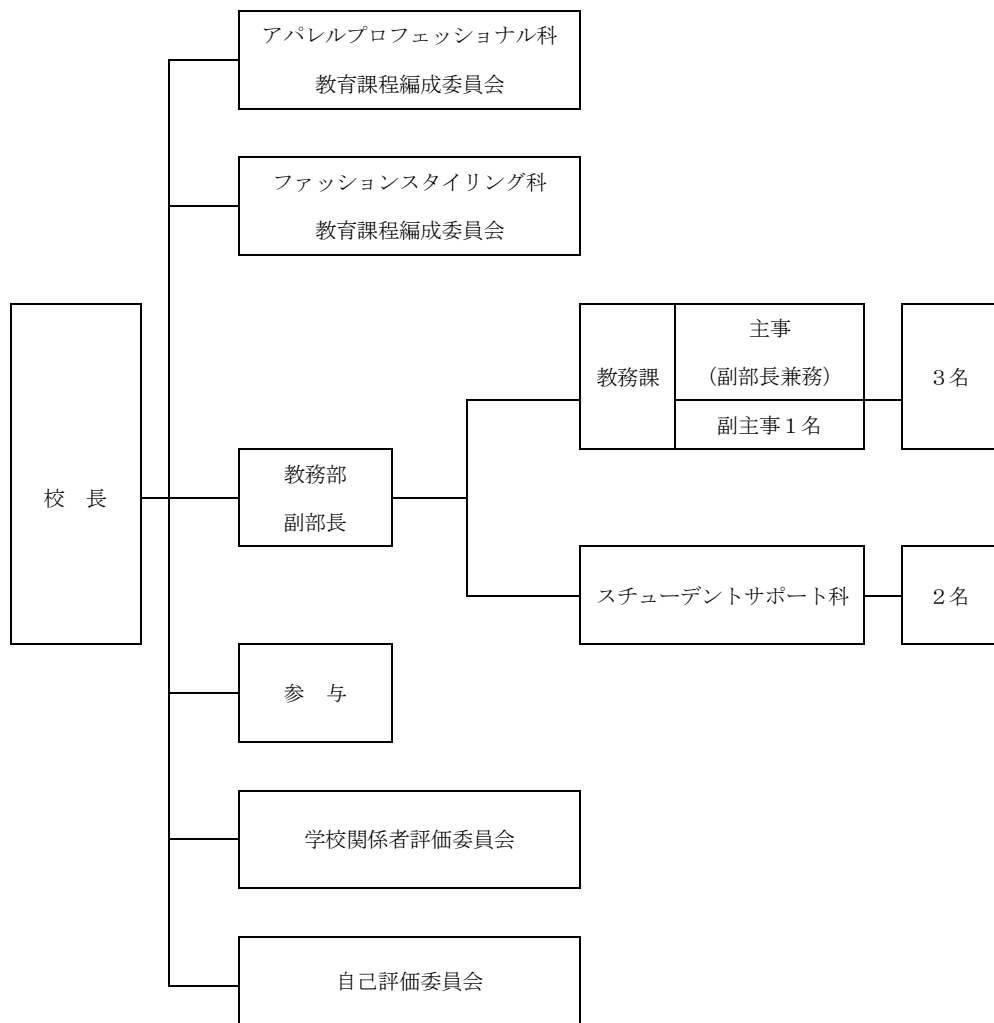
中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>建学の精神、教育の理念は、学校教育のバックボーンであり、連綿と受け継がれてゆくものであり最終的にはカリキュラム編成に反映されるべきものである。このため、将来構想を策定する際にもこの基本理念をもとにされるべきである。</p> <p>理念・目的・育成人材像は学校案内書にて掲示されている。今後は授業アンケート等でこの理念が生徒に定着しているかどうかをフィードバックする必要がある。</p>	<p>ファッション業界では、クリエイティブでもビジネスでも柔軟な考え方とバイタリティのある人材が求められているが、そのファッション業界で活躍できる人材育成を目的としている。生徒が持つ個性や自立性を尊重し社会に進出できるクリエイター（人材）を育成することを最大の目的とする。</p> <p>中期的構想を立てて、各学校の数値目標を設定し、運営していくが、具体的で詳細な数値は每期修正する事が必要であるため、5カ年計画委員会を将来構想委員会に改組して、現在検討中。その際、将来構想を策定する際にも、教育の理念を出発点とする必要がある。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の生徒たちは距離感が近く相談しやすいことを教員に望んでいるため、特に生徒との相談対応の能力開発を重要視し、学園で実施しているメンタルヘルスケア研修では全教員で行っている。</p> <p>専門分野においては職業実践教育の視点から教員研修として、業界で活用されているファッション情報に関するセミナーへの参加、素材産地の視察、業界向け技術向上のセミナーへの参加、夏期研修期間を利用しての技術向上を目的とした作品製作の実施等、能力向上を図っている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としての能力と学校運営や募集活動も行う幅広い業務運営能力が求められるのがファッションカレッジ教務部の業務である。教員ごとに得意不得意、専門性があり一律の業務は難しい面がある。</li> <li>・時代の変遷に伴い生徒を送り出す先のファッション業界の業務も変わり、学生が身につけるべき必要な能力も変わりつつある。その変化に合わせて教育が出来る様、能力開発が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事評価を有効的に使い、学校や担当科目の課題を発見していく意識と課題を解決していける能力の開発。</li> <li>・業界の変化をつかむ情報収集。企業との連携強化。</li> </ul>	<p>組織編成</p> <p>ファッションカレッジ教務部組織図(表 2)</p>

(表 2)ファッションカレッジ組織図



最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 2-2 運営方針

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか		①「礼節」、②「明朗」、③「努力」、④「誠実」、⑤「トライ」という校訓を生徒にも共有させるため、「Student Hand book」の巻頭でアナウンスメント。 職員会議等で各教職員に周知徹底されている。 学校の運営方針については、「武蔵野ファッションカレッジ学則」に規定されている。	学園全体の教育目的、輩出すべき人材像に沿って、武蔵野ファッションカレッジの学則により運営方針が決定されるべきである。 学園全体の方針と目的の適合性のある学校運営方針は、職員会議等で伝達され学校を構成する教職員が共有すべきものである。 ファッションカレッジの諸規定は、教育目標および、輩出すべき人材像と整合性を持っているべきである。	学園全体の教育理念と校訓との論理的整合性のチェックが必要。 各教職員の段階で日常業務と学校運営方針の刷り合わせが必要。 学校運営方針と各種諸規定の定期的な刷り合わせが必要。	学校法人後藤学園 規程集 Student Hand book

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の目標→学校の目標→学校の運営方針等はそれぞれ、後者が前者の達成のための手段となるため、目的と手段の適合性をチェックして有用性を保障する必要がある。学園の理念や人材像に沿った教育をカリキュラムに反映させて実施する必要がある。	この人材像を達成するためにすべてのクラスに担任を配置し、生徒のニーズや将来の活躍分野に対応したコースを設定している。

最終更新日付

2016年6月1日

記載責任者

小倉 展伸

## 2-3 事業計画

評価: 4

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか		<p>各学校で策定し、本部と各学校との懇談会⇒常務会(内部理事会)⇒評議員会⇒理事会で承認されるというデュープロセスで了承。</p> <p>各学校は、予算策定時に提出した事業計画に則って年間スケジュールを遂行。</p>	<p>次年度予算編成に当たって、各校の事業計画はその基礎的な積算根拠となるものである。</p> <p>理事会で承認した事業計画に沿って、予算執行がなされるべきである。</p>	<p>当該年度の業務遂行が計画に準拠して実行されたかどうかは5月の理事会において決算報告に先立って行われる事業報告書によりチェック。</p> <p>今後は、計画と実績の比較⇒差異分析⇒原因究明といったマネジメントサイクルが必要。</p>	事業計画書 事業報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画(plan)に基づいて予算編成がなされ、実際年間の教育が実行(do)され、事業報告書によりチェック(check)され、次年度への改善行為 (corrective action) を提案するというマネジメントサイクルとなる。	今後は、①計画と実績の比較 ⇒②差異分析⇒③原因の究明⇒④責任の所在の明確化というマネジメントサイクルを実施する必要がある。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 2-4 運営組織

評価: 3

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか		適切に運用している。	特記事項なし。	特記事項なし。	
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録(記録)は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか		<p>理事会のもとにファクションカレッジの教務部があり、その下に①教務課、②スチューデントサポート課の各組織がある。</p> <p>部課長制を引き、それぞれの责任担当を明確化させている。</p>	<p>理事長のリーダーシップが発揮でき、意思決定やコミュニケーションの迅速化、権限の委譲と責任の明確化を達成することが目的。</p> <p>組織運営が効率的に機能するためには学校の目的や目標と目的適合性をもった組織構成とすべきである。</p> <p>校長のリーダーシップが発揮できるような責任と権限の明確化は組織のガバナンスとして必要。</p>	<p>学校組織なので教務部一本化の体制として組織図を整備。</p> <p>更にそれぞれ権限の委譲と責任の体系を明確化すべきである。</p>	学校法人後藤学園 規程集 組織図

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか			本校は卒業生中心に教職員を採用しているので、採用後の「組織内訓練」、「組織外の資源を活用した訓練」を実施すべきである。	①学校内の教育訓練→②学園全体についての教育訓練→③業界に関する教育訓練→④社会や時代のパラダイムの変化に関する教育訓練の4段階で組織開発を行う必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人はその課せられた社会的使命を果たすために必要な管理運営組織を置いている。「理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する」（私立学校法第36条第2項）と規定されているように、意思決定のプロセスを明確にし、執行の結果についての説明責任（アカウンタビリティ）を果たすことが必要である。	学校がその業務を適正かつ効率的に遂行するためには内部統制システムを構築し、正当な手続き（デュープロセス）にもとづき効率的な管理運営に努めるとともに、学校運営に関する法規を遵守すること（コンプライアンス・マネジメント）が必要。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------



2-5 人事・給与制度

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか		昇格は人事評価をもとに、学校長から候補者の推薦を受け法人本部で協議して決定。 「学校法人後藤学園給与規程」および基本給与表に基づいて運用。 採用人事は、理事長、法人本部、各校長の面接により協議のうえ決定。 毎期 決算を行い、人件費の総体や各部門別データが開示されている。	年功序列型の給与体系から職能的なものにシフトさせて、本人の努力や業績を反映する様な賃金システムとすべきである。 年限の問題をクリアすることに加え、本人の業績が明確に判断基準となるような制度を整備すべきである。 本人の創意工夫や、努力が反映されるような賃金制度であるべきである。 学校法人後藤学園就業規則において採用制度が規定されている。 教職員の人件費は管理運営上固定費となるので毎期の増減に注意を払うべきである。	各教職員の職務の明確化と仕事の質をいかなる尺度で計量化可能かを理論整備する必要性がある。 人事評価の公平性・客観性を重視する必要がある。 現在、①マネジメント職群、②エキスパート職群、③事務職群、④事務補助職群に分けたがそれぞれに評価を加えて能力給的なものを加味すべきである。	学校法人後藤学園規程集 決算書類

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事評価を公正に行い、各教職員の努力や創意工夫が反映できる給与体系が重要。	外部の人事専門のコンサルタントを導入し、より公正な評価システムを開発中。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 2-6 意思決定システム

評価: 3

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか		<p>一ヶ月に一度のペースで各学校と法人事務局で会議を実施し、各学校の意見を吸収している。</p> <p>①各学校と本部との会議で決定したことは、②常務会(内部理事会)で議題の資格審査をし、③評議員会の諮問を受け、④理事会で最終決定される。</p> <p>各部署、部課長制を採用し、校長のリーダーシップが発揮しやすい体制を整備。</p>	<p>理事長のリーダーシップが発揮できるためには、組織としてのガバナンス(アカウンビリティとディスクロージャー)が必要である。</p> <p>各学校の構成員の意見は、本部と各学校との会議等を通じて本部へ吸収されるべきである。</p> <p>組織論的には、各階層とも権限の委譲と責任の体系および職務内容の明確化が必要。</p>	<p>学校の現場の意見が反映されるような風通しのよい組織が必要。</p> <p>学校の職員会議での各教職員の権限と責任の明確化が必要。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教職員が創意工夫を発揮し、自らの学校のこと自分たちで決定するというような組織風土が必要。	各教職員が創意工夫を発揮するためには、日常のコミュニケーションをほかり、問題意識を共有することが重要。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 2-7 情報システム

評価: 3

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか		学生情報等の管理は法人事務局において一元管理している。	学生情報と募集に関連した情報のシステムが別々の形式になっている。統一化が必要である。	セキュリティの確保が重要。	学校法人後藤学園規程集

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報インフラの構築、およびその保守は、学園全体の広報、教務、学生生活、就職などの教育機能の基盤としての重要性を有している。	セキュリティの確保が重要。

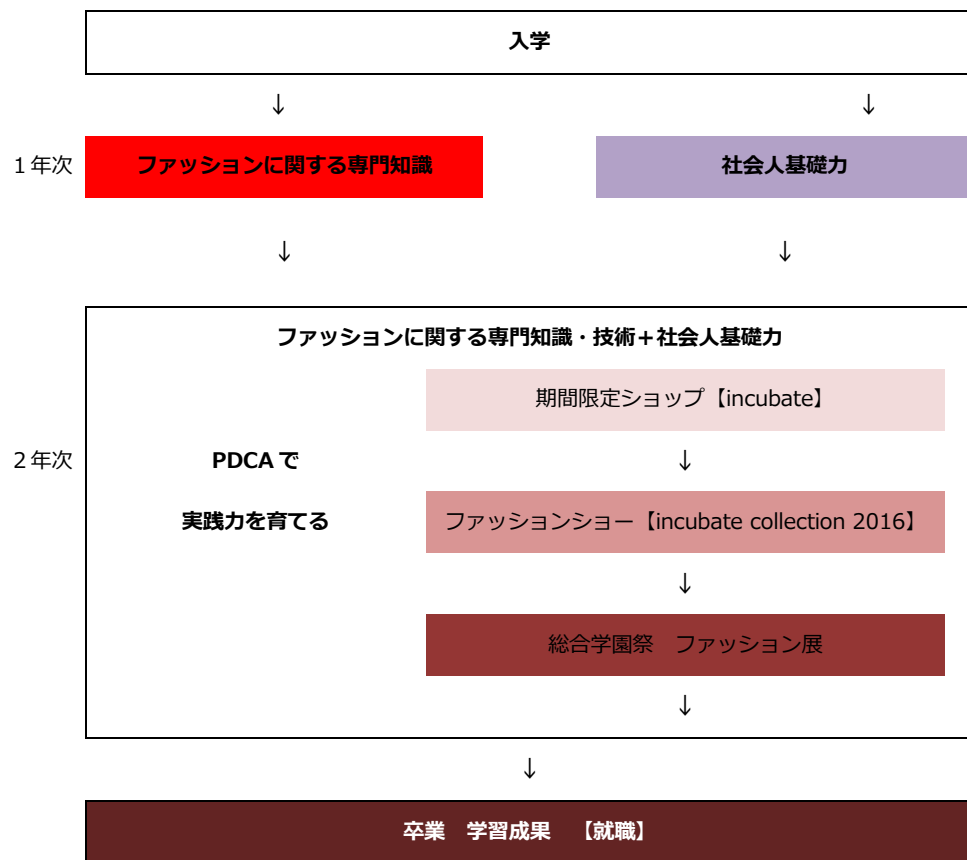
最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>期間限定ショップ【incubate】においては、平成 25 年度より導入したグループ間の競争を通して『目標の達成のために何をすべきか』を主体的に考え行動していく『前に踏み出す力』が身につく、平成 26 年度ではグループ間で議論し、協力して進めていく『チームで働く力』が身についてきた。平成 27 年度ではルーブリックを導入し、個人ごとの能力評価で実践教育の場として年々進化している。</p> <p>『incubate collection ファッションショー』では時代感を意識した作品作りのアプローチ、その作品のショーでの魅せ方が競合校との違いとして明確になり『武蔵野のスタイル』が形になってきた。業界関係者からも賞賛され、自信を持って見せられるレベルに到達してきている。</p> <p><b>【課題】</b> ファッション業界と整合性をもった人材育成の授業としていくため、更なる業界との連携が必要である。 学生が経験しただけの実施とならない様、評価方法を検討するべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション業界と整合性をもったカリキュラムとしていくため、企業との連携を活用していく。</li> <li>・社会人基礎力の評価と作品評価に対しルーブリックを導入し、学生自身が成長を実感し、主体的に学習していく運営へ移行させる。（前年度より継続しての施策）</li> </ul>	<p>表 3-1) 専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス</p>

(表 3-1) 専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス

【 専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス 】



最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 3-8 目標の設定

評価: 3

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか		各学科毎に、①「教育目標」、②「めざせる職種」、③「必須受験資格」、④「選択受験資格」を提示。	各学科に応じて輩出すべき人材像が異なるので、教育科目も異なるし、必要とされる資格も異なるべきである。	時代や業態の変化に応じた応用力の形成が課題。	学校案内書 Student Hand book
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか		1年次は基礎的な技術を習得、2年次は応用製作や全体的なファッション業界の事情を習得。	AP科は「デザイナーやパタンナーなどハイレベルな技術系スペシャリストを育成する」のが目的。FS科は「アパレル業界で通用するスタイリストやファッションアドバイザーを育成する」のが目的でありこの人材像に基づき2年間の課程が設定されている。	1年次と2年次の「必須科目」、「選択科目1」、「選択科目2」の内容的な区別と学年配当の明確化。	学校案内書 Student Hand book

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教育目標、育成人材像は、時代の変化、ライフスタイルの変化に伴う消費者ニーズの個性化・多様化・高度化、イノベーションによる業態変化に対応できるための基礎教育の充実が必要。</p> <p>各科の育成人材像の相違に応じた教育目標や教育内容をより明確にすべきである。</p>	<p>服作りを教える際に徹底しているのが、学園の基礎理念である「体で覚える」こと、実習に多くの時間を割いているのは、①「感性」を磨き表現する力も、②作業を「計画的」に進める力も、③スタッフとうまく「コミュニケーション」を取る力も、すべて実践でしか身につかないためである。このことが現代の業界のニーズに適合しているものと思われる。</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育目標、育成人材像は、時代の変化、ライフスタイルの変化に伴う消費者ニーズの個性化・多様化・高度化、イノベーションによる業態変化に対応できるための基礎教育の充実が必要。</p> <p>各科の育成人材像の相違に応じた教育目標や教育内容をより明確にすべきである。</p>	<p>服作りを教える際に徹底しているのが、学園の基礎理念である「体で覚える」こと、実習に多くの時間を割いているのは、①「感性」を磨き表現する力も、②作業を「計画的」に進める力も、③スタッフとうまく「コミュニケーション」を取る力も、すべて実践でしか身につかないためである。このことが現代の業界のニーズに適合してるものと思われる。</p> <p>AP科は、1年次で「デザイン表現の基礎となるベーシックな知識、技術を学び、デザインの手法や縫製技術の基礎力を固め、2年次で自らのデザインによる自由製作課題に取り組むことで表現力や創造力を磨くため、2年間のコースを設定。また、FS科は1年次で「ファッション提案の基礎となるファッションビジネス、コーディネート、プレゼンテーションを習得し、2年次で、高度なトータルファッションを学ぶために」2年のコースを設定。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 3-9 教育方法・評価等

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか		<p>「必修科目」「選択科目1」「選択科目2」の3分野で編成。</p> <p>卒業後すぐに社会の即戦力として活躍できるようにカリキュラムを構築している。</p> <p>開講されている教科目は、各学科の専門分野を体系的・系統的に学習できるように「必修科目」、「選択科目1、2」に区分して構成。</p> <p>現代社会のパラダイムの変化や社会的ニーズの変化により、産業界のニーズに合わせたカリキュラム改革を実施。</p> <p>学校目的や時代の変遷に沿って、随時、カリキュラム改革を行い、現代的再構成をおこなっている。</p>	<p>カリキュラムはフレームワークのため、目標達成のためにいかに有用性があるかという目的適合性(relevance)で編成されるべきである。</p> <p>将来の活躍分野である業界の人材像を育成するためのカリキュラムの変更を行うべきである。</p> <p>カリキュラムは①社会の変化、②業界のニーズの変化、③生徒の質の変化等に鑑み、定期的に見直されるべきである。</p>	<p>「選択科目1」、「選択科目2」で個々の生徒の将来の活躍分野に合わせて科目配置したプログラムを設置すべきである。</p> <p>時代の変遷、産業界のニーズの変遷に対応するためには基礎教育(物の見方、考え方)の充実が重要。</p> <p>さらに各科の特徴を打ち出せるような科目設定をし、差別化を行うべきである。</p> <p>法的規制、資格制限要件の比較的少ない学科なので差別化したカリキュラムで社会的にアピールすべきである。</p> <p>今後も随時カリキュラム改革を実施していく必要がある。</p>	Student Hand book 事業計画書



小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているかを <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか		<p>各科とも、①「必修科目」(専門分野における基本的・応用的な科目)、②「選択科目1」(各人の目標や興味にあわせ専門科目の学修と関連づけながら選択)、③「選択科目2」(ファッションショー関連科目、検定試験対策など学生生活を充実させる科目群)の3つのカテゴリーで展開。</p> <p>Student Hand bookにて、①担当者、②単位数、③授業方法(講義か実技か)、④履修区分(必修か選択か)、⑤学年配当、⑥学科配当、⑦開講時期、⑧評価方法、⑨授業のポイントをアナウンスメント。</p> <p>Student Hand bookにて半期15回分のコマシラバスを提示。</p>	<p>ファッションの分野は何よりも時代の先見性と感受性が必要なため、その基本的なツールとなる授業科目および各学科の特徴となる専門的教育を配置すべきである。</p> <p>体系的かつ系統的に学修できるように各授業科目の教育方針や授業の狙いと内容など講義・演習・実習等の概要をアナウンスメントし、動機づけをするべきである。</p> <p>生徒の学習の動機づけ、興味づけのため、体系を理解させるためにはコマシラバスが必要。</p>	<p>時代の変化、社会のニーズの変遷、人々のライフスタイルの変遷、価値観の推移等に合わせた定期的な点検が必要。</p> <p>各授業のシラバスが学校の教育目的達成の目的適合性を有しているかの、チェックが必要。</p> <p>他教科との論理的関連性、時代の到達点を垣間見せるよう毎年ブラッシュアップが必要。</p>	Student Hand book

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		<p>公益社団法人東京都専修学校各種学校協会が主催する研修会等々での研究機会を提供。</p>	<p>いずれもそれぞれの分野における時代の到達点を卒業生に把握させることが必要。</p>	<p>問題意識をもった卒業生が自主的に向上しようとする意欲を学校としては動機づけ、サポートすべきである。</p>	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/> キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		<p>将来の進路に応じて2つの科を設け、それに応じたカリキュラムおよび望ましい資格をとらせる教育を実施中。          業界のニーズにマッチさせるよう全教職員が努力中。</p>	<p>専修学校である以上は、正規のカリキュラムの中で将来の就業分野及び活躍するにふさわしい教育を行うべきである。          キャリア教育の実効性は、卒業生の進路、実社会での活躍で評価されるべきである。</p>	<p>社会のパラダイムの変化、産業界のニーズの変遷に合わせて教育カリキュラムも見直すべきである。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-4 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか <input type="checkbox"/> 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか		<p>前期・後期終了時に非常勤講師も含めて、全開設授業についての授業アンケートを実施して、法人本部で一括して集計・分析。</p> <p>同規定に基づき厳密に運用。</p>	<p>授業アンケートにより生徒の理解度の測定および教員も自らの授業の改善に資するために定期的に実施すべきである。</p> <p>専修学校および養成施設協会の「教育の資格」に準拠して評価すべきである。</p>	<p>現在は、各科別・担当者別の単純集計を行なっているがクロス集計をして各科やクラス別の特徴を明確にしたい。また、選択科目の教員に関する客観性、公正性のある評価基準が必要。</p> <p>選択科目の教員に関する客観性、公正性のある評価基準が必要。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>カリキュラムの構成要素である各学科目を体系的かつ系統的に学修できるよう各授業科目の教育方針や授業のねらいと内容を講義（座学）・実習・特別講義などの概要をあらかじめ「授業計画」として提示することが生徒のモチベーション付けに必要。</p> <p>キャリア教育とは、生徒一人ひとりが、カリキュラムの正課教育プログラムの中で、「望ましい職業観・労働観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」であるという立脚点のもと教育を実施。</p> <p>養成施設である以上、専修学校法および養成施設指導要項に基づいて厳密に運用。</p>	<p>教育目標、輩出すべき人材像を達成するためのフレームワークがカリキュラムであるので、その下位概念である個々の教科科目は、それぞれの構成要素として目的適合性を持って配置されるべきである。①「必修科目群」、②「選択科目群 1」、③「選択科目群 2」の間の線引き（カテゴリー区分）を定期的に見直す必要がある。</p> <p>キャリア教育に対しては、教員の意識改革や教育に携わる教員の資質の向上、効果的な科目の開講とその担い手の確保、教育効果の測定ツールの開発などが課題となるだろう。</p> <p>本年も「自己点検」「自己評価」の前提である授業アンケートを、専任・非常勤全授業に対して実施した。アンケートを詳細に分析して学園全体の授業改善策を検討するとともに、各教員に対しては個々の授業改善に活用していただきたいと考え授業参観等を実施し、次年度以降FD委員会の立ち上げを検討していく。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 3-10 成績評価・単位認定等

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか		各教科担当により異なるが、成績の評価は、①試験、②提出物(レポート)、③課題作品提出、④出席状況、⑤受講態度等に基づいて評価。	成績評価は授業の到達目標との関連で評価されるべきではあるが、評価とは全人格的なものであるため筆記試験のみでなく、出来るだけ多角的な評価をすべきである。	評価というのは全人格的なものであるため、できるだけ多角的評価が望ましい。その際、①出席状況、②筆記試験、③提出物(レポート)、④課題作品などのウェイトを明示すべきである。	Student Hand book
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか		両科1年次・2年次の正規のカリキュラムにおいて「コンテストコーチング」という科目を配置して、様々なコンテストへのアプローチを推奨。	生徒にファッション業界のそれぞれの分野の時代の到達点を垣間見せるべきである。	教員は時代の趨勢をつかみ、それを授業に還元する努力が必要。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
成績評価は授業の到達目標との関連で評価されるべきではあるが、評価とは全人格的なものであるため筆記試験のみでなく、出来るだけ多角的な評価をすべきである。	①出席状況、②提出物(レポート)、③筆記試験、④平常点などのウェイトを明示すべきである。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 3-11 資格・免許取得の指導体制

評価：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか		学校案内書に各教科毎に関連する資格と配当年次を明示。	専門士の資格以外にもそれに付随する関連資格は出来るだけ取得させるのが望ましい。	費用対効果のチェックが必要。	学校案内書
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか		各科、①「必須受験資格」と②「選択受験資格」を明示し、①については、正課の授業の内容を履修すれば受験可能とし、②については、受験勉強のオリエンテーションや必要に応じた個別指導を行なっている。	正課の授業を習得すれば種々の資格にアプローチできるような講義内容に配慮すべきである。	正規の授業科目を履修することにより、関連資格にアプローチ可能とする様な教育内容が望ましい。	学校案内書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
企業においても周辺知識を持った人材を求めており、就職戦線の厳しい中、企業ニーズに合わせた付加価値を付けた人材を育成する事が必要。本校を卒業した者は、「専門士」（服飾・家政専門過程）の称号が得られる他、各学科とも①技術検定、②教員資格、③販売士、④ファッションビジネス能力検定、⑤パターンメイキング技術検定、⑥ファッションスタイリスト検定、⑦ファッション販売能力検定等の免許状（証）および資格を取得するための課程が認定されている。	就職試験において、資格取得は努力の成果として判断する企業が多くなっている為、学校では資格取得を推奨している。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 3-12 教員・教員組織

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等との連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか		<p>学校教育法の専修学校設置基準に基づく教員配置を行なっている。</p> <p>各教員はそれぞれの分野に応じて、授業のための研修を行なっている。</p> <p>非常勤を含む全開設授業について、前期・後期終了時に授業アンケートを実施。</p>	<p>教員は自分が専攻する分野の知識や技術を体系的に伝達するが建学の理念の精神にもとづく教育理念の伝承者であることが必要。</p> <p>いずれの分野においても教員は社会の到達点を見せることにより、生徒に動機づけをを行い興味づけを行うべきである。</p> <p>授業アンケート等にもとづき教員の適正性を判定すべきである。</p> <p>教員は絶えず時代の到達点を把握し、それを平常の授業に還元すべきである。</p>	<p>専任教員では担当できない科目については外部講師を活用。</p> <p>教員の各階層で教員研修を行う必要がある。</p> <p>法人本部総務部で一括して集計分析を行い、講師会等の資料として、また担当者の授業の反省材料としていただく。</p> <p>今後、引き続き、各階層で研修を行う必要がある。</p>	アンケート集計資料 各種研修資料

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか		<p>教授力を判定するための質問項目も含めた授業アンケートを毎期全授業終了時に実施している。</p> <p>本校は人事評価についての研修は実施しているが教員そのものの資質についての研修は不十分。</p>	<p>教員の教授力を把握するために授業評価を実施すべきである。</p> <p>教員は絶えず時代の到達点を把握し、それを平常の授業に還元すべきである。</p>	<p>集計結果のみを公表し、個票は担当者に返却し、自分自身の授業の改善に役立ててもらおう。</p> <p>教授力についての専門の研修を行うことが今後の課題。このため、外部団体の研修に教職員を参加させている。</p>	アンケート集計結果
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか		<p>年度ごとに教務部な業務分掌を作りそれを元に業務を行っている。</p> <p>授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組みとして、教育課程編成委員会を組織している。</p>	<p>同じ評価基準において評価するためには、講義資料・講義内容・試験問題・採点基準を統一すべきである。</p>	<p>適時、講師会を開催し、授業内容の確認、試験問題の統一化を提案する方向で対処してゆく。</p>	教務部内規定業務分掌表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、卒業生を中心に教職員を採用しているため、「ファッション産業が属している業界の到達点」、「職業専門家としての正当な注意義務（due professional care）」、「時代の背景やパラダイムの転換」についての教員としての指導力を開発するための研修を非常勤講師も含めて行うべきである。</p>	

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>前年度に引き続き、就職希望者に関しては全員就職することが出来ている。就職が決まらなかった要因としては学生本人の意欲が不足し、活動が消極的であった。就職は最終的には学生自身の将来の事となるので本人達の意思を尊重し、自分のペースで行った結果であるが、就職に関して適切な判断ができない学生が出た際の指導強化はすべきであると反省が残る。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員が第一希望の企業や職種に就業出来ることを目指した指導としていく。</li> <li>・就職に関して適切な判断ができない学生が出た際の指導強化。</li> </ul>	<p>業界全体で求人は増えても採用基準を下げているわけではないので、受験準備を整えることは必要である。引き続き、受験対策や少人数性を生かした個別指導の精度を上げていく</p>	<p>(1) 資格取得について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションビジネス能力検定 3 級</li> <li>・ファッションビジネス能力検定 2 級</li> <li>・パターンメイキング能力検定 3 級</li> <li>・販売士検定 2 級</li> <li>・洋裁技術検定初級</li> <li>・洋裁技術検定中級</li> <li>・ファッションスタイリスト検定 ジュニア</li> </ul>



総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
		<p>(2)就職率について</p> <p>①            残念ながら希望者全員内定には届きませんでした。就職が決まらなかった要因としては学生本人の意欲が不足し、活動が消極的でした。就職は最終的には学生自身の将来の事となりますので本人達の意思を尊重し、自分のペースで行った結果ですが、就職に関して適切な判断ができない学生が出た際の指導強化はするべきであると反省が残ります。</p> <p>②就職先  <b>採用状況</b>            平成 27 年度の採用状況としては、ファッション業界でも経団連の採用指針により採用活動解禁日が平成 27 年 3 月 1 日からとなり例年より 2 ヶ月ほど遅いと言われていましたが、実際には各企業は若い労働力確保に必死なこともあり、例年よりも早い進みで内定を出す採用スケジュールとなっていました。</p> <p>特に自社店舗を持つ大手企業を中心に、各店舗の労働力確保の為に販売職の採用には大変積極的ですが、採用基準を落としてまで採用をする企業はなく、社会人基礎力と仕事への意欲を測る採用試験となっています。やはり十分な採用試験対策をして臨まないと内定獲得は出来ない状況です。一方、企画・生産系企業の求人は低調な状況ではありますが、服の『お直し』に特化した業務を行っている企業の求人は増えてきており、労働力を外国人労</p>

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
		<p>働者に頼っていた日本の縫製工場においては『日本人の技術者を育てたい』という意気込みを持つ企業が現れ始め、学生に意欲があれば是非受け入れたいとする企業も出てきています。</p> <p>③キャリア支援プログラム</p> <p>2年間での就職指導をスケジュールに沿って指導していく『キャリア支援プログラム』をベースに、試験直前対策を目的にキャリアカウンセラーによる個別の面接指導を入れる等、試験対策を強化しています。表は4へ</p>

(表4) キャリア支援プログラム

キャリア支援プログラム	
1年次4月	コミュニケーションの必要性理解 自ら挨拶することの重要性の認識
5月	卒業生懇談会1 就職意識の向上
6月	職種の紹介
9月	就職試験対策講座開講（リクルートガイダンス1）
10月	ビジネスマナー開講
12月	卒業生懇談会2 卒業生による就職活動経験談や従事している業務の紹介
2月	学内企業説明会開催
3月	内定報告会 2年生内定者による内定獲得事例の紹介
2年次4月	就職試験対策講座開講（リクルートガイダンス2） 一般教養テスト、面接試験対策の実施 キャリアカウンセラーによる個別の面接指導開始 内定獲得まで個別相談は随時実施
2月	進路未決定者最終面談 受入企業の紹介
3月	内定報告会 後輩へ就職活動経験談の紹介

最終更新日付

2016年6月1日

記載責任者

小倉 展伸

## 4-13 就職率

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか		<p>①就職面接②就職ガイダンス③卒業生懇談会④就職支援講座⑤求職票の登録⑥進路希望調査⑦採用試験対策講座⑧個人面接などを実施。経年度の卒業生の就職先等を就職係がファイルし、生徒が随時閲覧可能な状況に整備。</p> <p>経年度の卒業生の就職先等を就職係がファイルし、生徒が随時閲覧可能な状況に整備。</p>	<p>専修学校は、出口の実績により内容が評価されるので学園ぐるみで力を入れるべき課題である。</p> <p>卒業生の進路情報は学校として把握しておくべきであり、また経年度、職種別、会社別等にファイル保存し、在校生の利用に供する環境づくりが必要。</p>	<p>生徒にいかに職業観を持たせ、モチベーションを維持させていくかが今後の問題。</p> <p>経年度の資料を一括して閲覧可能とするような資料室の確保が今後の問題。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専修学校は、出口の実績により内容が評価されるので学園ぐるみで力を入れるべき課題である。	一年次の早い時期から就職ガイダンスを行い、担任、就職担当教員、ファッション業界に特化したキャリアカウンセラーを外部から採用し、生徒一人ひとりと向き合いながら、マンツーマンによる就職指導を徹底している。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 4-14 資格・免許の取得率

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか		<p>正規のカリキュラムの設置科目を履修すれば資格試験にアプローチするための基礎学力が習得できているというカリキュラム構成が望ましい。</p> <p>常時、学校として資格取得のデータは把握しており、さらに生徒の将来の活躍分野にて、有用な資格を取得した学生の情報を、学校案内書で随時、取り上げて公告。</p>	<p>多様な資格を取得することにより、活躍の機会も拡大するため、専門士の資格に加え、関連する資格は出来るだけ取得させるべきである。</p> <p>生徒の資格取得情報を担任がまず把握し、教務の責任者が集約し、学校として把握しておくべきである。</p>	<p>関連資格の必要性をいかに生徒に教育するかが今後の課題。</p>	<p>学校案内書 Student Hand book</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>多様な資格を取得することにより、活躍の機会も拡大するため、専門士の資格に加え、関連する資格は出来るだけ取得させるべきである。</p>	<p>本校所定の教育課程（カリキュラム）の単位数を履習し、卒業した者は、「専門士」（服飾・家政専門課程の称号）が得られる。その他にも、①ファッションビジネス能力検定3級（両科1年次）、②パターンメイキング技術検定3級（AP科2年次）、③ファッションビジネス検定2級（FS科2年次）、⑤販売士検定3級（FS科1年次）などの必須受験資格があり、さらに、AP科においては、①洋裁技術検定（正規のカリキュラムで開講）、②販売士検定2級、③教員認定、FS科においては、①ファッション販売能力検定、②販売士検定2級、③フォーマル検定、④教員認定などの選択受験資格として生徒への受験を指導している。</p>

最終更新日付

2016年6月1日

記載責任者

小倉 展伸

## 4-15 卒業生の社会的評価

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか		<p>それぞれの特定分野で活躍している卒業生を常時把握し、イベントの際の講師や特別講義の講師に依頼。</p> <p>現在、①スタイリストや、②スタイリストアシスタント、③デザイナーアシスタント等の卒業生の活躍状況を学校案内書にて公示。</p> <p>両科1年次、2年次の正規のカリキュラムにおいて「コンテストコーチング」という科目を配置し、学校全体で推奨している。</p>	<p>学校としては、卒業生の社会的活動の社会的評価を把握しているべきである。</p> <p>学校で習得した知識・技術を活用できる特定の分野で著名となった人物を特定して在校生の努力目標とさせるべきである。</p> <p>卒業生および在校生の社会的活動は学校として把握しておくべきである。</p>	<p>在校生については担任およびチューデント・サポート部担当教員が把握、卒業生については今後、同窓会と学校とのより親密な情報把握が必要。</p> <p>学校と同窓会組織との連絡を密にし、卒業生の動向を学校として逸早く把握すべきである。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生および在校生の社会的活動は学校として把握しておくべきである。	在校生はもちろんのこと、卒業生も多数活躍中。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>・メンタル的な不調や衝動的な進路変更に対して対策を行ったが結果として退学者数は残念ながら前年度を上回ってしまった。</p> <p>・奨学金の利用は近年多くなっているが、学校での利用枠から漏れることなく希望者は全員利用できている。卒業後の返還に関しても在学中から指導もしており、問題なく運用できている。</p> <p>・資格取得について、他校を見ているとファッション分野では資格取得にあまり熱心ではないが、本校は取得を勧めている。販売士2級を取得していたことで異例の昇進となった卒業生の成功事例もあり、今後も取得を強化していく。</p> <p><b>【課題】</b> 退学に関して、学生本人の健康問題や家庭・保護者の失業や離婚による経済的困窮による学費の未納の状況となり、学校としての対応の限界を痛感する事にもなった。</p>	<p>問題が大きくなる様、早期発見し『予防』の施策を引き続き努力する。</p>	

最終更新日付

2016年6月1日

記載責任者

小倉 展伸

## 5-16 就職等進路

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか		<p>生徒の就職活動のサポートや助言をリクルートガイダンス担当教員やクラス担任が対応。</p> <p>1年次後学期より正課としての選択科目1のリクルートガイダンス1で就職指導を始め、2年次前期にも選択科目1のリクルートガイダンス2で就職指導を実施。</p> <p>受験に向け就職支援担当職員・クラス担任を含め、面接や実技試験へ向けて個別指導を実施。</p> <p>1年次から就職を意識したプログラムで社会人としてのマナーや面接時のノウハウを早い時期から習得させている。</p>	<p>教職員は生徒自身の将来の活躍分野や就職観について意識づけをすべきである。</p> <p>一年次より卒業生懇談会や就職ガイダンスなどを実施し、早期から就職活動に向けて動機付けを行うべきである。</p> <p>一年次の早い時期から就職ガイダンスを行い、担任や就職担当教員が生徒一人ひとりと向き合いながらマンツーマンによる就職指導を徹底すべきである。</p> <p>就職担当教員とクラス担任が連携して一人ひとりの就職活動をサポートすべきである。</p>	<p>担任、就職担当教員で組織的に対応する方向を目指すべきである。</p> <p>業界と連携して、インターンシップ等を通じた就業意識の向上が必要。</p> <p>自己分析や就職先選びまで担任が責任をもって個別指導するという体制を強化してゆくべきである。</p> <p>過去のデータをもとに履歴書の書き方や面接までの的確なサポートを強化してゆくべきである。</p>	Student Hand book 学校案内書



中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>内定率アップのため、1年生の早い時期から卒業生や企業の人事担当者を招き、現場の声を聞くことのできる学内企業説明会を開催し、生徒のモチベーションアップと、より一層の個別対応で就職指導に力を入れている。かかる就職活動のサポートや助言をリクルートガイダンス担当教員やクラス担任が面接や実技試験へ向けて個別指導を実施。</p>	<p>生徒自身が自ら就職観をもち、早い段階から就職活動をし、希望職種のみでなく幅広い選択ができるような心構えが必要。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 5-17 中途退学への対応

評価：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか		<p>生徒一人ひとりの個性を把握した上で、勉強面や生活面のきめ細かなサポートを担当が担当し、さらに心理相談員(非常勤)も配置している。</p> <p>入学者数は、広報部でまとめてネットで各部署で確認可。退学者は学校→総務部→財務部と稟議書で確認。</p>	<p>退学者が発するサインを逸早く把握するために担任は常時、目配りをすべきである。</p> <p>学校の経営観点から見て、かかる情報は、法人本部で逸早く、一括して把握すべきである。</p>	<p>担任・就職担当教員・心理相談員が協力して組織的な取り組みを行なうべきである。</p> <p>退学者が申請している退学理由を分析して、退学者を減少させる努力をするべきである。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>多様な事情をもった生徒を受け入れざるを得ない現状に鑑み、担任およびスチューデント・サポート部の教員、スクールカウンセラーを逸早く把握し、対応することが必要。</p>	<p>本校では、多様な事情をもった生徒に対して、スクールカウンセラーを配置し、教務部内ではメンタルヘルスケア推進委員を置き、メンタルヘルスに不調をきたした生徒に対して相談対応している。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 5-18 学生相談

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか		生徒は、担任に相談をして担任は状況に応じてスクールカウンセラーに相談する。また、生徒が直接スクールカウンセラーに相談ができる様、直接連絡ができる仕組みも作っている。	カウンセリングを受けて改善されるには難しいケースが多い。問題が大きくなる前に予防策を講じる方針とするべき。	予防策を講じる為、プロであるスクールカウンセラーと協議し具体的施策や研修を計画し行う。	学校法人後藤学園 規程集 Student Hand book
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか		平成27年度は留学生の在籍はなかった。相談体制としてはクラス担任制のため担任が行う。相談内容によって学園事務局の協力を要請している。	少子高齢化、国際化に伴い留学生を受け入れざるを得ない現状に鑑み、留学生に対する組織的対応が必要。	今後、留学生が多数になった場合には言語や日本文化理解などの問題、学費や生活費支援の問題、就職問題など総合的にサポートするため留学生センター等の対応窓口が必要。	学校法人後藤学園 規程集 Student Hand book

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>多様な生徒を学園に入れているという現状に鑑み、①精神的な病気、②経済的困窮などに加えて、③必ずしも目的意識の明確で無い生徒に対しては早期に対応することにより退学者を未然に防止する必要がある。物理的なバリアフリー化だけでなく、教職員による精神的なバリアフリー化を推進することが必要。</p>	<p>多様な生徒の中には、学習意欲の減退を招くことが住々に見られる。このため、かかる生徒にも「やればできる」といったような成功体験を積ませるような新しい教育システムや教育手法の開発が必要。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 5-19 学生生活

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか		<p>①学校法人後藤学園奨学金制度②日本学生支援機構奨学金制度③東京都育英会奨学金制度④学資ローンなどを利用</p> <p>経済的にやむを得ない理由がある場合は必要と認められた場合に限り届出によって学費の延納・分納を実施している。</p>	学費の延納・分納の対応をしているが、納入が遅れるケースが出ている。学費を生活費にあててしまう場合も出ている。	自己管理が難しい場合、銀行口座から自動引き落としができる仕組みも整えられたので、利用が必要と思われる学生には促しをする。	Student Hand book 学校案内書
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		<p>毎年、4月の新学期開始時に健康診断を実施。</p> <p>体調不良の際には医務室で休む事が可能(一般的な救急薬のみ常備)。それでも回復しない場合は校医に相談。</p>	<p>生徒の健康管理は学校、特に担任の重要な任務の一つと思われる。</p> <p>医務室が使用校舎から離れて設置してあるので利用しづらい。</p>	より一層担任は、一人一人の生徒の健康管理に配慮すべきである。 使用校舎内に医務室の整備。	Student Hand book

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか		学校法人直営の寮(板橋寮)を所有し常勤の寮監を配置、また寮担当の専任教員を配置し、きめ細かい生活指導を実施。	地方からの入学者や働きながら学びたいという生徒の学生生活をサポートする必要がある。	多様な生徒を受け入れている現状に鑑み、保護者に代わる寮生に対するよりきめ細かいソフト面の対応が今後の課題。特に、コミュニケーションが不得手で集団生活に馴染めない学生をいかに適応させるかが問題。	学校案内書 Student Hand book
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか		組織だったクラブ活動的なものは現在どころ存在しない。	正課の授業のみでなく、クラブ活動等課外活動は、学校としてできるだけ多数の生徒に関与させるのが望ましい。	今後、生徒間で自主的な組織化の動向があれば学校として全面的にサポート。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>従来の教育の機会均等の権利保障のための奨学金に加えて、優秀な学生確保のための学生募集戦略としての奨学金も充実することが必要。</p> <p>生徒の健康管理は学校、特に担任の重要な任務の一つと思われる。</p> <p>生徒の住居に対する意識も変化する中で多様な生徒を受け入れているという現状に鑑み、保護者に代わる寮生に対するよりきめ細かいソフト面の対応が今後の課題。</p>	<p>本校で取り扱っている奨学金制度として、①日本学生支援機構、②東京都育英会奨学金、③銀行教育ローンがあり、その他、学資ローンもある。いずれも本学園の設置する学校の在校生に対し、学費の調達に苦勞することなく勉学に打ち込めるよう、生徒の就学及び育成に寄与する事を目的としたもの。</p> <p>医務室の整備が今後の課題。</p> <p>寮生に対する目が行き届くように、学校法人直営の板橋寮に専従の寮監夫婦、専従の調理スタッフを配置、さらに各学校及び事務局に寮担当の職員を配置。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 5-20 保護者との連携

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか		随時、担任が保護者と必要に応じてコンタクトしている。	多様な生徒を受け入れているという現状に鑑み、学校だけでは目の届き難いところを保護者と連携して生徒を指導すべきである。	日常より密接な保護者との連携が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
必ずしも目的意識のはっきりしない多様な環境や事情を抱えている生徒を受け入れざるを得ない現状に鑑み、今後は、学校(担任)、生徒間のみならず、保護者との組織的な連携も必要である。	出席状況および成績に問題のある生徒に対しては担任が頻繁に保護者に電話連絡。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 5-21 卒業生・社会人

評定：2

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか		<p>毎年、学園祭の招待等で卒業生と交流。</p> <p>ファッション業界で活躍中の多くの卒業生を講師として招き、直接対峙しながらアドバイスを受けることが出来るセミナーを開催。</p>	<p>卒業生の活躍状況は学校として絶えず把握しておくべきである。</p> <p>卒業生が働きながらステップアップするのを学校としてサポートすべきである。</p>	<p>卒業生の築いた実績を募集等に活用すべきである。</p> <p>ネットワークを活かした「武蔵野リンク」を活性化すべきである。</p>	入学案内書
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか		<p>公益社団法人東京都専修学校各種学校協会が主催する研修会等々での研究機会を提供。</p>	<p>いずれもそれぞれの分野における時代の到達点を卒業生に把握させることが必要。</p>	<p>問題意識をもった卒業生が自主的に向上しようとする意欲を学校としては動機づけ、サポートすべきである。</p>	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか		<p>生涯学習の重要性が認識されつつある昨今において、社会人を積極的に受け入れている。</p>	<p>少子高齢化社会の進展、生涯学習の重要性等に鑑み今後、社会人学生に対する組織的な対応をすべきである。また、図書館等学校施設の開放も積極的に行なうべきである。</p>	<p>多数の社会人学生が在籍する様になった場合には、社会人対応窓口を設置することが必要。</p>	



中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の活躍状況は学校として絶えず把握しておくべきであるし、卒業生が働きながらステップアップするのを学校としてもサポートすべきである。</p>	<p>ネットワークを活かした「武蔵野リンク」（ファッション業界で多様に活躍する多くの卒業生との交流）を活性化すべきである。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）						
<p>専門的な製作設備やデジタルスキルのための設備である CG、CAD はリニューアルされ業界でスタンダードとして利用されている機種での学習が可能となった。また、就職活動においてネットを利用しての応募手続き、書類提出が多くなりそれに応える設備として整備している。</p> <p>ファッション分野の学修として使用頻度の高いミシン設備については老朽化し修理対応が出来ない機種となっていたが、平成 27 年度から 3 年計画で全てのミシンをリニューアルする計画で動いている。</p> <p>その他、教室の老朽化したエアコンをリニューアルし快適な学習環境充実をはかった。</p> <p><b>【課題】</b> 各授業においてインターネットの利用が年々多くなっており PC 教室の利用が重なってしまう状況が出ている。</p>	<p>校舎内全ての教室でインターネットが利用で出来る学内無線 LAN を整備する。</p>	<p>平成 27 年度に营造・修繕・購入等を行った施設・設備</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">時 期</th> <th style="width: 90%;">場 所 ・ 内 容 ・ 目 的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">平成 26 年 8 月</td> <td>102 教室 CAD 授業用設備 CAD 11 台 パターンスキャナー 1 台 プロッターカッター 1 台</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">平成 27 年 3 月</td> <td>102 教室 CG 授業用設備 iMac 23 台 3 号館校舎内 授業用設備 Mac Book Air 5 台</td> </tr> </tbody> </table>	時 期	場 所 ・ 内 容 ・ 目 的	平成 26 年 8 月	102 教室 CAD 授業用設備 CAD 11 台 パターンスキャナー 1 台 プロッターカッター 1 台	平成 27 年 3 月	102 教室 CG 授業用設備 iMac 23 台 3 号館校舎内 授業用設備 Mac Book Air 5 台
時 期	場 所 ・ 内 容 ・ 目 的							
平成 26 年 8 月	102 教室 CAD 授業用設備 CAD 11 台 パターンスキャナー 1 台 プロッターカッター 1 台							
平成 27 年 3 月	102 教室 CG 授業用設備 iMac 23 台 3 号館校舎内 授業用設備 Mac Book Air 5 台							

最終更新日付	2016 年 6 月 1 日	記載責任者	小倉 展伸
--------	----------------	-------	-------

## 6-22 施設・設備等

評定：2

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか		<p>工場用ミシンをはじめとした専門的な製作設備のほか、実務に欠かさないCADやCGソフトなどのデジタルスキルを身につける設備を整備。</p> <p>必要に応じて教育に支障が生じないようにメンテナンス。</p>	<p>設備を効率よく教育に供するために定期的メンテナンスが必要。</p> <p>老朽化による教育効果の低下を防ぐために技術革新に対応すべきである。ハード、ソフト共に高額な費用がかかる。</p>	<p>養成施設法のみでなくさらに教育充実のための施設を整備する必要性がある。</p> <p>定期的な修繕計画が必要。</p> <p>教育効果に悪影響がでないよう改善計画と財源の確保が必要。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校が必要とする施設・設備を整備するだけでなく、その安全性を保障し、教職員と生徒が安心して使用できるような環境整備が必要。	技術の習得に集中し、確実にスキルアップするための環境作りに力を入れている。ライフラインを含め、施設設備において耐用年数を超えた老朽化している部分があるので優先順位をつけて修繕を進めてゆき、在校生が安心・安全で学園生活が送れるように配慮すべきである。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 6-23 学外実習、インターンシップ等

評定 3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか		<p>①異文化に触れる海外研修(希望者のみ)、②実社会に触れ社会人としての意識や自覚を高めるためのインターンシップを実施。</p> <p>特にインターンシップについては、①校内での事前確認および、②校外での現場実習、③報告会を実施して選択科目の単位認定。</p>	<p>①異文化に触れる海外研修、②現場での仕事を体験し、即戦力となる知識や技術、感性を実践的に吸収するためのインターンシップ制度は生徒のためにプログラム化すべきである。</p> <p>各学科の教育目標、人材像に応じて、各研修を指導すべきである。</p>	<p>より多くの生徒が参加できるような動機づけが必要。</p> <p>正課のカリキュラムの選択科目としての位置づけられているインターンシップについての評価の構成要素の割合の検討(特に左の①、②、③のウェイトの問題)。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在学習していることが実際社会でどの様に活用展開しているのかを知ることにより、今後の勉学への刺激や意識の向上を図るとともに、職業適性、将来計画を考える機会とし、社会人としての自覚や職業観育成を目的とするため、両科の「選択科目2」において、2年次配当で正規のカリキュラムで「インターンシップ」を開講。</p>	<p>①異文化に触れる海外研修(希望者のみ)、②実社会に触れ社会人としての意識や自覚を高めるためのインターンシップを実施。 特にインターンシップについては、①校内での事前確認および、②校外での現場実習、③報告会を実施して選択科目の単位認定。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 6-24 防災・安全管理

評価：2

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか		<p>実習時に使用する設備・機器等の取り扱いおよびその危険性については、授業時に担当者が注意。</p> <p>授業開講時に担当者が毎時メンテナンスおよび点検を実施。未然に防ぐ努力を行なっている。</p> <p>入学時に「学生生徒災害傷害保険(専修・各種学校災害保険)」に加入させている。非常時の際の防災セットを学生ごとに用意している。</p> <p>有事の際の動線、避難経路等の理解として避難訓練をオリエンテーション期間に実施。</p>	<p>教職員や生徒に対して、安心安全な環境・施設を整備するのは法人事務局の責務である。</p> <p>授業の際に使用する設備のリスクについては生徒にアナウンスメントすべきである。</p> <p>実習担当教員に担任も加わり、生徒達を注視し生徒の事故を未然に防止すべきである。</p> <p>起こりうる様々なリスクに対応できるような多様な処置が必要。</p> <p>有事の際に機動的に対応することを想定した防災訓練を実施すべきである。</p>	<p>マニュアルの策定や、災害に備えた日常の訓練が課題。</p> <p>事故防止マニュアルの策定が今後の課題。</p> <p>同保険が基本だが、さらに追加的な対応策が必要。</p> <p>全校を対象とした定期的な防災訓練の実施が今後の課題。</p>	学校法人後藤学園規程集

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		<p>各学校において、防災等の被災対応のマニュアルを作成し防災訓練を実施している。</p> <p>各学校における教育内容の特殊性に応じた病気・負傷等の対策をとっている。</p>	<p>そもそも既存の施設等の老朽化問題があり、現代における安全性確保のためには、校舎の建て直しも視野に入れた長期的・根本的な対応が必要と思われる。</p>	<p>近未来プロジェクトを立ち上げ、防災体制全般も含めた中・長期的な計画を策定する方向で検討し始めた。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>授業の際に使用する設備のリスクについては生徒にアナウンスメントすべきであるし、実習担当教員に担任も加わり、生徒達を注視し生徒の事故を未然に防止すべきである。また、起こりうる様々なリスクに対応できるような多様な処置が必要。</p>	

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【現状】</b>            体験入学参加者の感想から「単なる服作りの技術指導ではなく、社会で働く事を念頭に置いた教育である」と評価され、競合校と比較しても教育の質について優位であると認知されてきている。そして、その成果として微増ではあるが出願者も増えている。</p> <p><b>【課題】</b>            ・体験入学参加者自体を増やす施策が必要である。            ・継続している課題として、社会的に知名度が低いことは改善されておらず、周知活動は高校へのガイダンスが中心であり新しい施策が望まれる。</p>	<p>社会的知名度向上のため、高校や業界に向け本校の教育を知ってもらう機会を作る。</p> <p>広報機会として            期間限定ショップ            ファッションショーへ審査・評価を依頼            ロールプレイングコンテストの開催</p>	<p>体験入学参加者の感想から単なる服作りの技術指導ではなく、社会で働く事を念頭に置いた学校運営で競合校との比較で真摯に教育を行っている学校であると認識され、競合校と比較しても教育の質について優位であると認知されてきています。そして、その成果として微増ではありますが出願者も増えています。</p>

最終更新日付

2016年6月1日

記載責任者

小倉 展伸



## 7-25 学生募集活動

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか		<p>高等学校内における「進路説明会」や「出張模擬授業」を入学実績校を優先的に選定し、各学校の応援・協力のもと実施。</p>	<p>出張先の高等学校の特殊性をもとにしたテーマ内容の選択が必要。</p>	<p>高等学校との日々の綿密なコミュニケーションが必要。</p>	
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか		<p>専修学校協会の取り決めに従って広報部を中心として教職員が一体となって実施。</p> <p>入学者のアンケート結果を参考にして分かりやすいものを作成している。</p> <p>①体験入学時、②学校説明会の会場の他にも、平日は広報部で（土）（日）は日直者が対応する体制を整備している。</p> <p>広報部を中心として、教職員が一体となって模擬授業、体験入学、ガイダンス等を実施。</p>	<p>専修学校協会の取り決めを遵守すべきである。</p> <p>学校の内容を志望者等の立場に立って理解しやすいものとするべきである。</p> <p>志望者に対してはできるだけ丁寧な体制をとるべきである。</p> <p>定員遵守の方針でできるだけ定員充足率を上げる募集活動をすべきである。</p>	<p>取り決めを遵守することをさらに担当者に徹底すべきである。</p> <p>今後も入学者に対するアンケートをより詳細に分析し、多様化したニーズに対応できるより分かりやすい学校案内書作りを行なっていくべきである。</p> <p>誰が対応しても画一的な対応ができるように教職員の研修の強化が必要。</p> <p>本学でしか学べないカリキュラムの提供により、他校との差別化を行うことが必要。</p>	入学案内書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>生徒募集においては、専修学校協会の取り決めを遵守し、生徒募集のツールである学校案内書は、学校の教育内容を志願者および保護者にとって理解可能なものとするべきである。そのことによって本校の差別化を行なうべきである。また、定員遵守の方針のもと、できるだけ定員充足率を拡大するような募集活動であるべきである。</p>	<p>教育成果の集大成を明らかにするのが就職の質となると思われる。このため、就職一覧の冊子（「進路一覧」）を毎年作成し、個々の本人の了承を得た上で開示し、志願者の入学相談の際により具体的なイメージ作りに供している。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 7-26 入学選考

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか		入学選考基準を学生募集要項で明確化し、適切に運用している。			入学案内書 学生募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか		<p>学内の情報システムが整備され適切にデータは蓄積、管理されている。</p> <p>広報部、教務部ともに情報システムを利用し入学者の傾向を把握している。</p>	集めた情報の利用のため、加工・処理が必要。それを基に募集戦略を立案するべき。	集めた情報の利用のため、加工・処理をする担当者、部署が必要。	学内情報システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
志願者にとって分かりやすい基準で行うべきである。また、マーケティング戦略としてかかる情報は広報部にて総合的に把握すべきである。	かかる情報を分析し、マーケットセグメントして広報戦略を立案すべきである。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 7-27 学納金

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか		<p>現在、類似の専修学校の学納金等を参考にして本学の独自性を加味して理事会で決定。</p> <p>財務部で総体的に把握し、理事会で報告している。</p>	学納金は、実収入の一番基本的なものなので年度推移を正確に把握すべきである。	<p>学費に窮する志願者のための手厚い対策が必要。</p> <p>実収入の一番基本的なものである学納金を増加させる方策を全学的に検討すべきである。</p>	入学案内書 学生募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか		授業料と教材費に分けて、学則に則って適正に処理している。	文部科学省の通知（「大学、短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の入学辞退者に対する授業料等の取り扱いについて」：平成18年12月28日）に準拠して適正に処理すべきである。	今後も同通知を遵守すべきである。	文部科学省「大学、短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の入学辞退者に対する授業料等の取り扱いについて」（通知）（平成18年12月28日 18 文科高第 536号）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【現状】</b> 18歳人口減少の影響を考慮しすると大幅な収入増は難しい状況である。教育機関といえども収支均衡が望ましい。学園では予算制度の見直しとして予算委員会が立ち上がり適正な予算分配を図っている。</p> <p><b>【課題】</b> 教育機関といえども収支均衡が望ましい。</p>	<p>収入増のための入学者を増やす努力と予算削減のため優先順位を精査した予算組みと予算執行を行う。</p>	

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 8-28 財務基盤

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか		教務部内に近未来プロジェクト委員会を立ち上げ収支の予測を策定。	学校法人の財政にとって最も重要な要件は収支の均衡、すなわち、帰属収入で基本金組入れと消費支出を賄うことが原則。	服飾・家政分野への進学率減少傾向と18歳人口減少の厳しい環境であるが、画期的打開策は現実的ではない。本文である学校として質の高い教育をするべきである。そのため、学費を上げることも視野に入れるべき。	
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況(消費収支・資金収支)による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか		財務部により、学校法人にとって重要な数値の経年度のデータが作成されている。	財務諸表における主要な財務数値を経年度把握し、構成比・趨勢比等の数値を把握し、学校の実態をより正確に把握すべきである。	財務諸表の各種比率を私学事業団の資料と比較して他の類似校に対する本学の優位性・不利性を把握すべきである。	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>18歳人口の減少、経済情勢の悪化、進学率の上限の限界等、専修学校を取り巻く環境諸条件はますます厳しいものとなりつつある。かかる状況下で財政を健全化させてゆくためには、収入に見合った人件費や諸経費などの経常的支出と、将来を見据えた設備投資のバランスを考慮に入れて執行すべきである。</p>	<p>新規施設の建設および既存施設の改修や更新は減価償却費等の後年度負担を伴う。このためフローとしての人件費や教育経費およびストックとして設備費との合計額の帰属収支比率の目標値を中期計画ベースで設定すべきである。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 8-29 予算・収支計画

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか		学園の目的・目標を達成するために事業計画に反映し、それに金額を配賦して年度予算を策定。	学園の目的・目標を達成するためのものが事業計画であり、その事業計画のそれぞれに金額を配賦したものが年度予算であるためそれぞれに目的適合性をもって策定されるべきである。	年度予算や中期計画は目的達成の度合でその有効性・効率性・妥当性が評価されるべきである。	
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか		学校は予算策定時に提出した事業計画によって配賦された予算により通常業務を遂行。	事業計画に基づいて予算編成がなされ、年間計画はその予算により執行されるべきである。	今後は①計画と実績の比較⇒②差異分析⇒③原因の究明⇒④責任の所在の明確化というマネジメントサイクルを実施する必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務数値に関する情報を正確に把握するためには、学校法人会計の基盤である学校法人会計基準の概念的フレームワークに準拠して作成される財務諸表に示される会計情報の内容および限界を考慮に入れて経年度の分析を行い、正確に実態を把握する必要がある。	学校の財政基盤を正しく把握するためには、財務諸表（資金収支計算書、貸借対照表、消費収支計算書）によって示される財務情報の内容と質、その限界を認識し、かかる情報の適切な分析により、経済的実体をより正確に把握して計画を策定する必要がある。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------



## 8-30 監査

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか		<p>監事および監査法人による業務監査および会計監査を行い、評議員会へ諮問ののち、理事会で最終承認。</p> <p>公認会計士による監査は決算から2ヵ月以内に受けることとなる。監事と公認会計士による二重の監査を行なっている。</p>	<p>監事および外部の監査法人の公認会計士により、業務監査および会計監査を適切に行うべきである。</p> <p>国もしくは地方自治体から補助金の交付を受けている学校法人は、監事の監査の他に私学振興助成法に基づく公認会計士監査を受けるべきである。</p>	<p>今後も、各種法令に準拠して行うべきである。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>適切な監査を行うためには、私学振興助成法に基づく公認会計士（監査法人）による監査、および私立学校法に基づく監事による監査を受けることとなる。</p>	

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 8-31 財務情報の公開

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか		<p>決算の後、2ヵ月以内に開催される評議員会に財産目録、貸借対照表、収支計算書および事業報告書を諮問し、理事会で承認した後、事務所に備え置き、閲覧に供している。</p> <p>現在、同法に準拠して財務情報公開を実施。</p>	<p>財務部の責任と権限によって作成された財務情報は公開（ディスクロージャー）をして会計責任（アカウントビリティ）を解除すべきである。</p> <p>学校法人会計基準に準拠して作成された財務情報は私立学校法に規定された情報公開を行うべきである。</p>	この結果をホームページにリンクするなどして、一般の閲覧に供する必要がある。	「16文科第304号」（平成16年7月23日別添様式参考例）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法令遵守は職員会議等、折に触れて法令遵守を教職員には徹底している。</li> <li>扱いの多い個人情報では、学校法人後藤学園個人情報保護規程を定め、適切な保護に努めている。</li> <li>職業実践専門課程認定校としての第三者評価を受ける予定であり、その準備を進めている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <p>第三者評価に向けた準備</p>	<p>第三者評価に向けた準備スケジュールの立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の自己評価レベルの向上の為に研修や勉強会へ積極的に出席。</li> <li>分野別評価についての情報収集。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護規定 「学校法人後藤学園個人情報保護規程」を基本規定として運用。</li> <li>自己点検および自己評価の規定 ファッションカレッジ学則 第4条には、「本校はその教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため本校における教育活動等の状況について自己点検及び評価を行うものとする」と規定。</li> </ol>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

評価：2

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか		法規や設置基準に遵守して、学校運営。 武蔵野ファッションカレッジ教務部と法人事務局との会議で折にふれ啓発。	法令遵守が時代のパラダイムとなっているのでそれに則り運営すべきである。	今後も、ガバナンス（組織統治）とコンプライアンス（法令遵守）を重視して学校運営する必要がある。 今後、種々の機会をとらえて啓発活動を実施。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付

2016年6月1日

記載責任者

小倉 展伸

## 9-33 個人情報保護

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか		<p>「学校法人後藤学園個人情報規程」に基づき「個人情報保護計画」を策定し実施すると共に学園職員はこの規定に従って個人情報を保護している」</p> <p>学校法人後藤学園個人情報保護規程を定め、会議等で折にふれて啓発。</p>	<p>個人情報の適切な保護のため、「学校法人後藤学園 個人情報規程」を基本規定として運用。</p> <p>各学校の構成員に、「個人情報の範囲」、「守るべき必要性」等を共有させるべきである。</p>	<p>今後、より一層啓発するとともに個人情報保護のためにあらゆる施策をとるべきである。</p> <p>学園全体の統括的責任者の権限と責任の明瞭化、個人情報保護計画に基づく研修が必要。</p>	学校法人後藤学園規程集

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 9-34 学校評価

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか		<p>専任・非常勤すべての開講科目に対して生徒の授業アンケートを実施し集計⇒問題点の抽出を実施。</p> <p>現在、本校は、第三者評価に向けての環境整備を行なっている段階。</p> <p>学則に規定し、また Student Hand book にも明示し共有できるように配慮している。</p>	<p>定期的に授業アンケート等を実施し、①現状把握⇒②問題点の抽出⇒③教育目標に沿った改善策というマネジメントサイクルが必要。</p> <p>ファッションカレッジ学則 第4条には、「本校はその教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため本校における教育活動等の状況について自己点検及び評価を行うものとする」と規定。</p> <p>①現状分析⇒②問題点の抽出⇒③改善策の提案というマネジメントサイクルは関係者全員で共有すべきである。</p>	<p>授業アンケートを集計・分析し、集計結果を開示し、授業担当者御自身の授業改善の資料としていただく。</p> <p>第三者評価に向けた環境整備が必要。</p>	<p>学則 Student Hand book</p>
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか		<p>ホームページにて公開している。</p>	<p>マンパワーに頼りがちである。組織として自己点検自己評価の充実をはかる。</p>	<p>一部の教員に負担をかけるない運営スケジュールの調整と業務分担の工夫。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか		規定を作り適切に運営している。関係業界団体、企業や高等学校より委員の派遣を受け運営。	外部の委員が評価しやすい様、資料の事前に配布など工夫が必要。	資料の事前配布の実施。	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか		ホームページで公表している。	学校関係者委員が揃う日程調整が難しく、予定時期から遅れがちであり、それに伴い結果公表も遅れる。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>より充実したカリキュラム編成への検討と専任・非常勤の指導力・資質向上のため、今年度より授業評価に取り組む。さらに、授業評価実施の結果明らかになった課題に対して改善を図る。</p> <p>自己点検・自己評価を実施し、結果を公表し、①現状把握⇒②問題点の抽出⇒③改善策の提案というマネジメントサイクルを組織構成員が共有する事は組織開発のための必須の要件である。</p>	<p>「教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況についても自ら点検及び評価を行うものとする」（第4条）と学則で規定。</p> <p>今後、第三者評価に向けての取り組みが必要。</p>

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 9-35 教育情報の公開

評定：2

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか		学校案内書・ホームページ等で教育目的、教育内容、人材像などを公開。特に、保護者向けパンフレットも作成。	専修学校は多様なステークホルダーの要請や期待に応え、情報開示により説明責任を果たし、評価を受けることが必要。	①学校の建学の理念の明確化、②規程の明確化、③マネジメント態勢の構築、④各種窓口（ステークホルダー別）の設置などが必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------



## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊島区主催のよさこい祭りやソメイヨシノ親善大使の審査員としての協力を継続して行っている。また、豊島区に関連の文化事業団体、財団法人としま未来文化財団とのパイプも出来ているので今後も学校の特性を生かした地域協力を継続して行っていく。</li> <li>・豊島区専修・各種学校協会（豊専各）や東京都専修・各種学校協会（東専各）に理事や評議員を派遣（前者は事務局も本学園で担当）。</li> <li>・豊島区の文化事業『国際アート・カルチャー都市実現』のための特命大使として理事長、本校校長が就任。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <p>学園で掲げる人格教育に重なる内容であると学校では捉え、ボランティア活動や地域や社会への貢献する意識を育成する仕組み作りが必要と考える。</p>	<p>『人格教育』の一環といえる内容であるので、カリキュラムで取り入れることを検討。尚、学園として『人各教育』の具体化に向けた委員会を設置し取り組みを継続中である。</p>	<p>学園として『人各教育』の具体化に向けた委員会を設置し取り組みを継続中である。</p>

## 10-36 社会貢献・地域貢献

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか		<p>豊島区専修・各種学校協会（豊専各）や東京都専修・各種学校協会（東専各）に理事を派遣し、前者は事務局も本学で担当。</p> <p>豊島区の公益財団法人としま未来文化財団主催の文化祭においてファッションショーで文化事業に協力。</p> <p>豊島区の公益財団法人としま未来文化財団よりオーケストラ衣装のデザインを受託。</p> <p>①人間教育、②社会教育、③専門教育といった授業展開において生徒に啓発している。</p>	<p>学校関係（専修学校・各種学校協会）やファッション業界と連携・交流を深め、時代の到達点を絶えず確認すべきである。</p> <p>社会的公器としての学校は社会に対してその資源を還元すべきである。</p> <p>生徒のニーズと地域社会のニーズを把握し、生徒の主体的な参加という視点から、生徒を地域貢献や地域交流に取り組んでゆくように働きかけるべきである。</p> <p>本校は「衣」に関する学校なので「衣と安全」、「衣と健康」、「衣と環境」等の問題意識をもって授業を行うべきである。</p>	<p>広くかかる団体と今後も交流すべきである。</p> <p>学校として社会交流を実施すべきである。</p> <p>学校として地域社会と連携した多様なプログラムを実施すべきである。</p> <p>正課の授業において各科目としての社会とのつながりに配慮して授業を行うべきである。</p> <p>今後、重大な課題として「衣と環境」「ライフスタイルの変遷と衣」などに配慮した授業が必要。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取組んでいる か	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか		毎年、学年末にヨーロッパのファッション教育機関等で海外研修を実施している。	学校として国際化に対応すべきである。	生徒に対して種々の機会をとらえてかかる活動を推奨すべきである。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の使命は主に教育活動であったが、近年は、これらに地域社会、産業界、行政と連携した社会貢献活動、社会連携活動も重要な使命となってきた。また、学生支援という観点からは個人またはクラブおよびサークル活動等を通じて、いかに地域貢献活動や地域交流活動への取り組みを促進するかということも重要な課題となっている。</p>	

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 10-37 ボランティア活動

評定 3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか		生徒たちが学校の周辺の清掃活動を実施。	ボランティア活動を通じて「自分探し」を行いつつ、自己と他者、自己と社会の関係等を理解し、「自己の存在理由」を実感するために必要なもの。 生徒の自立的・自発的な動きを尊重し、側面援助を行うべきである。	生徒が学校で学んだ知識や技術等を実社会での体験に活用し、同時にその体験がフィードバックを受けることができ、生徒が受けた体験を他の生徒と共に共有する場があることが必要。 生徒にボランティアの意義や組織論について教育し、生徒が自律的に運営してゆけるようにすべきであろう。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ボランティア活動支援のあり方や運営方法は、学校の教育方針や生徒のニーズあるいは地域特性等に大きく左右されるものであり、それらの諸条件を総合的に調整して学校の教育に目的適合性をもった現実的な対応が必要。	地域に根ざした学校づくりを目指し、ボランティア活動などの地域貢献活動は学校という社会的公器として今後も継続して取り組むべきである。 生徒が学校で学んだ知識や技術等を実社会での体験に活用し、同時にその体験がフィードバックを受けることができ、生徒が受けた体験を他の生徒と共に共有する場があることが必要。

最終更新日付	2016年6月1日	記載責任者	小倉 展伸
--------	-----------	-------	-------

## 4 平成27年度重点目標達成についての自己評価

平成27年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>①平成27年度学校目標 生徒の『教育内容における満足度向上』</p> <p>②同目標達成のための、平成27年度の優先課題 平成26年度事業計画において『授業運営の見直し』『就職支援の充実』『学習進捗状況の理解』の3つの施策を掲げましたが現段階において未完成の部分が多くあり、課題も見えてきました。平成27年度の学校目標は前年度を継続し、生徒の『教育内容における満足度向上』とします。</p> <p><u>現段階での検証・課題</u></p> <p>『授業運営の見直し』、『学習進捗状況の理解』においては常勤教員と非常勤講師を含め各授業担当者の目標認識が不足し具体的な形で施策が成されていませんでした。また、認識していても教員個々の資質に依存する形での運営となり、目標達成を測る検証のシステムも不足していました。</p>	<p>①平成27年度学校目標 目標として掲げた『教育内容における満足度向上』は【専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス】の2年間に満足していると卒業時にとるアンケート結果から判断しています。</p> <p>②同目標達成のための、平成27年度優先課題への取り組み 平成27年度の学校目標達成の為に以下の施策を計画し実施しました。</p> <p>施策1. 非常勤講師の学園目標及び学校目標理解のための講師会を開催。 平成28年3月22日に講師会を開催し、学園目標、学校目標についての共通認識を作る場となりました。講師陣からも講師間の情報交換にも必要な場であり有意義な場であり協力体制を強化することにもなりました。</p> <p>施策2. 学園目標である『惹き付ける授業』のノウハウを学ぶ教員研修を計画し実施 平成27年2月25日にゲーミフィケーションについての研修会を実施しました。学生が自ら学ぶプラス面が強調されているものですが、一部の学生が授業の取り組みが消極的になりクラス学生の成長にばら</p>	<p>平成28年度の課題として 目標『成長を把握できる仕組み作り』 学生が自らの成長を実感し喜びを得ることで、成長するための努力の必要性を理解し、継続的に努力できる人材の育成に努めます。</p> <p>同目標達成のための、平成28年度の優先課題 <u>3つのポリシーの設定・運用</u> 平成28年度より以下、3つのポリシーの運用を優先課題とします 3つのポリシー <u>ディプロマ・ポリシー</u>(卒業時の到達目標) <u>カリキュラム・ポリシー</u>(教育課程編成・実施の方針) <u>アドミッション・ポリシー</u>(入学者受け入れの方針)</p>

平成27年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>『就職支援の充実』については前年度の課題は概ね改善され、就職活動も順調に進み次年度も継続するよう努力します。</p>	<p>つきがでるというマイナス面も知ることができ、各教員の導入準備に有効な機会となりました。</p> <p>施策3.『惹き付ける授業』のモデル授業となる科目を2科目設定し運営</p> <p>【専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス】の中心科目である『ショップマネジメント2』『incubate collection』を設定しました。『ショップマネジメント2』では営業成績でのグループ間競争に『incubate collection』では各自の責任ある役割に学生たちは強い意欲を示し取り組んでくれました。</p> <p>施策4.『惹き付ける授業』の検証するアンケートを実施し、生徒の満足度を測る</p> <p>施策3で設定した科目のアンケート結果は満足度の高いものとなりました。しかし、『惹き付ける授業』とする為に学生達はイベント的な捉え方となり、能力向上の為の授業としての認識が薄くなった反省があります。</p> <p>施策5. 学校、学科のルーブリック（基準）の導入に着手</p> <p>試験的にルーブリックは導入し、向上させていく段階となりました。評価の元となる学校、学科の教育の到達目標を明確化する為に『ディプロマ・ポリシー』『カリキュラム・ポリシー』『アドミッション・ポリシー』を明文化し学校教育の根幹を整え本格導入に着手していきます。</p>	